

稲山会 通信

創立50周年記念特別号(13¹⁰/₇)

2006年1月1日発行

発行人：新井昭夫 発行所：稲門山の会事務局 TEL03-3367-3723 FAX03-3367-8150 ©稲門山の会1998

早大山の会50周年に寄せて

早稲田大学山の会会長
理工学術院 教授
濱田 政則

早稲田大学山の会が創立50年を迎えたこと誠に慶賀に堪えません。山の会の活動の発展に御尽力されて来られた諸先輩に改めて甚なる敬意を表する次第であります。

5年ほど前になりますが、大学本部の学生課長より電話があり「山の会の活動が極めて停滞しており、大学側が連絡しようとしても学生の方から何の応答もない。このままでは大学として学生の会としての認可を取り消さざるを得ない」との話がありました。急いで現状を調べた所、部員も5人に満たない状況で、ほとんど会としての活動を行っていないことが判明しました。このため理工学部を中心に新たに部員を勧誘し、年2回程度の山行を実行することによって大学側にも活動継続を認めてもらい数年間、会の存続を企てて来ました。その後、鈴木明人、井村英明、渡辺征二さんら諸先輩の懇切な御指導、また稲門山の会からの財政的支援を頂いて、ようやく部員も10数名に増加し、冬期の活動を行うなど会としての活動が軌道に乗って来た所であります。

しかしながら、その活動は往時と比較すればまだまだ不十分であります。「山登り」の素晴らしさを多くの若者に伝えて行くために部員数の増加と活動の一層の発展を企てなければなりません。今後とも後輩のため稲門山の会の諸先輩の御指導と御支援を切にお願いする次第です。最後に私事になりますが、多事に紛れて小職自体ほとんど山登りをする機会がありません。近い将来は事にけじめをつけて再び皆様と一緒に、昔登ったあの懐かしい山々の頂に立って見たいと考えています。

創立50周年に向けて

稲門山の会
代表 市村 栄一

新年明けましておめでとうございます。皆様にはご健勝のこととお慶び申し上げます。

本年は早稲田大学山の会創立以来50周年を迎える事となりました。

この様な時に稲門山の会代表として皆様にご挨拶を述べる事が出来ます事は大変光栄な事と存じます。創立以来50周年・・・過ぎてみれば、その永さを全く感じません。私達は、スタートに当たって5つの部会を創りました。それは地歴、厚生、資料、気象、生物で、当時各部はあらそってその成果を得意としたものでした。そして現役が最高に多い時は1年生から4年生迄で100名

を超えておりました。会員は皆、より高い山へ、より困難な岩壁へと挑戦してゆきました。時は去り、世界の屋根も登り尽くされてしまった今、アルピニストのヒマラヤへのあの熱病の様な思いも霞の彼方に消えてしまった様な気がします。

しかし私達「山の会」の精神は、ただ単に高いところに登ると言う事ではなく、自然の中に自らを置いた精神と肉体を鍛える事でしたが、いま現役に於いてはこの言葉はあまり歓迎されない様な気がします。

現在、現役会員は数名に留まり、山の会の存続に大変危機感を感じております。そこで「レター作戦」なるものを考えてみました。現役の学生諸君を中心に、OBの強力なお力添いを御願いし、友人、知人、その他の方々に早稲田の学生を紹介し貰うレターを送る事です。

さて山とは自然の中の一部です。その様にいろいろなスタイルの部会があっても良いと思います。この様に「山の会」は大いに自然を満喫する会にもなるでしょう。私達はかつてはピークハンティングと、より困難な山登りが主体でしたが、これからは大自然の中に身を置いてより心豊かな山登りを楽しむ事も考える必要があるかと思います。時が過ぎ考え方が変化する様にOB諸君と現役諸君との交流から生まれるその時から未来があると考えます。皆様としっかりとスクラムを組んで「山の会」を創り、育てて行こうではありませんか。皆様の強力なお力添えを御願い致します。

創立50周年を祝って

早稲田大学山の会

幹事長 中村 達

私が入部しまして早くも3年近くの月日が流れました。入部した当時はこの会は創立何年だ、とても歴史がある会なんだ、などと言われてもあまり実感がなかったように思います。しかし3年経つと人間変わるもので、非常に歴史ある会なのだな、と感じることが多くなってきたように思います。こう感じるのは、自分の何倍もの人生を歩んできた先輩方との交流が多くあることが関係しているのではないのでしょうか。OBによる山の上でのご指導はもちろんのこと、部室などでのお話は、さすが人生経験が豊富なだけあって非常に勉強になっています。このように自分の親か、あるいはそれ以上ご年配であるOBとの交流の機会が多くある会は、他にはなかなかありません。このような機会を通して会のメンバーは山の技術だけでなく、一般社会における技術も身に付けていると思います。

また、山の会という会に所属してからは、一緒に山に行くメンバーは普通の友人とは少し違うと感じ始めました。山というある意味極限の状態を共に過ごすため、相手のことを本当に“信頼”しなければならないからです。また山の上では、その人の様々な横顔が見えてきたとしても、それを受け入れなければならないということもあるかもしれません。山の会のOB方が、卒業されて何年経ってもこれほど結束が強いのはこのためであると思います。普通の大学を4年間送っているだけで一生付き合うことが出来る友人は何人できるのでしょうか。山の会では一緒に山に登ったメンバー全員が、そのような友人になると私は信じています。

このような素晴らしい会ですが、来年は創立50周年を迎えることになりました。会自体はずっと安泰な状態ではありませんでした。皆様の協力があって50年間も山の会が存在しているのです。私にとってこの会はまだ“3周年”かもしれませんが、卒業して半世紀が経ったところに山の会創立100周年記念式典を開くことができれば最高だと思います。その前に来年はみなさん御一緒に創立50周年を祝いましょう。

50周年の記念行事について

現在、稲門山の会役員会と各ワーキング・グループは次の様な企画を進めています。その概要と進行状況を皆様にお知らせいたします。

各WGのメンバーは次のOBの方々です。

- ①50周年記念パーティー：清水OB、卯月OB、佐藤嘉OB、笠原OB
- ②50周年記念登山：三木OB、齊藤洋OB、鈴木明OB、渡辺征OB
- ③50周年記念誌：恩田OB、松村OB、井村OB、齊藤雄OB、新井OB
- ④50周年記念グッズ：池田OB、小島閑OB、関根OB（現在記念品の選定中です）

①50周年記念パーティーの概要

1. パーティー

日時：2006年11月18日（土）15：00～19：00

会場：①記念式典：大隈会館（15：00～16：30）

②懇親会：大隈ガーデンハウス（17：00～19：00）

展示：パーティー会場内、パーティーが始まる前、16：30から

会費：会員5,000円～7,000円程度で検討。

2. その他、内容等

記念式典：山の会の歩み

プレゼンテーションを行う

記念講演：演題未定

会員主体であることから費用も考慮する。

展示：①書籍・資料

関係資料を出来るだけ網羅する。終了後は了解が得られたものについて、山の会部室に保管し、記録として整備する。

②写真

一貫したテーマ・思想の下に展示する。

③その他（パネル展示）

現役・OBの作品等

3. 展示品に関するお願い

①写真および資料のご提供（記録の展示とプレゼンテーション作成に使用）

山の会の合宿・山行・早稲田祭・その他の行事・部室など現役時代の懐かしい写真、山の会会員の海外遠征登山（山の会主催にかぎらず当会員が参加しているもの）の記録や写真、会員個人の海外登山・探検の記録や写真をご出展ください。（写真には説明文を添えてください）

②山の会関連グッズ他のご提供（展示に使用）

山の会関連の各種記念品（説明文を添えてください。）

③連絡先

佐藤嘉紘（昭和37年商卒）

住所：〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町27 TEL：03-3252-8877

e-mail：attichi@aol.com

②WM S 50周年記念登山（ふるさとの富士山に登ろう）

早稲田大学山の会創立50周年に因んで、ふるさとの富士山を下記の方法で50座選定致しました。

①日本百名山に登録されている富士山を含む各地の〇〇富士19座（No.欄に*印を付した山）。

②百名山を有しない都道府県からは各1座選定し、都道府県すべてを網羅。

③尚、百名山以外の富士は、当該都道府県在住者乃至出身者の協議により他の〇〇富士への変更可。

④各々は委員から案内、要請があります。

No.	山名		標高 (m)	所在地 (都道府県)	担当区分 (年次等々)	計画立案者 (山行リーダー)	備考
	富士山名	正式名称					
1 *	富士山	(本家本元)	3,776	静岡・山梨	現役		
2 *	利尻富士	利尻岳	1,721	北海道			
3 *	知床富士	羅臼岳	1,660	北海道			
4 *	オホーツク富士	斜里岳	1,545	北海道			
5 *	蝦夷富士	羊蹄山	1,898	北海道			
6	渡島富士	駒ヶ岳	1,131	北海道			
7 *	津軽富士	岩木山	1,625	青森			
8 *	南部富士	岩手山	2,038	岩手			
9 *	出羽(秋田)富士	鳥海山	2,236	秋田・山形	39年度卒	鈴木明人39	
10	文字富士	大土ヶ森(オオドガモリ)	580	宮城			
11 *	会津富士	磐梯山	1,819	福島			
12 *	日光富士	男体山	2,484	栃木	36年度卒	三木常靖36	同期会山行を予定
13 *	谷川富士	谷川岳	1,963	群馬	現役		
14 *	筑波富士	筑波山	876	茨城	現役		
15	日高富士	富士山	221	埼玉			
16	上総富士	富士山	298	千葉			
17	御岳富士	御岳山	883	東京			
18	三浦富士	富士山	183	神奈川			
19 *	越後富士	妙高山	2,454	新潟	現役		
20	富士ノ折立	富士ノ折立(立山連峰)	2,999	富山			
21 *	加賀富士	白山	2,702	石川			
22 *	大野富士	荒島岳	1,524	福井			
23 *	諏訪富士	蓼科山	2,530	長野	現役		
24 *	戸隠富士	高妻山	2,353	長野	現役		
25	三河富士	本宮山	789	愛知			
26	美濃富士	烏帽子岳	865	岐阜			
27	伊賀富士	尼ヶ岳	958	三重	現役		
28	大和富士	額井岳	816	奈良			
29	紀州富士	竜門山	757	和歌山	現役		
30	近江富士	三上山	432	滋賀			
31	都富士	比叡山	848	京都			
32	天見富士	旗尾岳	548	大阪			
33	播磨富士	笠形山	939	兵庫			
34	新庄富士	笠杖山	1,062	岡山			
35	八幡富士	飯山	1,009	広島			
36	長門富士	十種ヶ峰(トクサガミネ)	989	山口			
37 *	伯耆富士	大山	1,792	鳥取			
38	石見富士	三瓶山	1,126	島根			
39	阿波富士	高越山	1,133	徳島			
40	讃岐富士	飯野山	422	香川	現役		
41	伊予富士	伊予富士	1,756	愛媛	現役		
42	土佐富士	高ノ森(コウノモリ)	299	高知			
43	筑紫富士	浮岳	805	福岡			
44	佐世保富士	烏帽子岳	568	長崎			
45	伊万里富士	腰岳	488	佐賀			
46	豊後富士	由布岳	1,584	大分			
47	小国富士	湧蓋山	1,500	熊本			
48	生駒富士	夷守岳(ヒナモリダケ)	1,334	宮崎			
49 *	薩摩富士	開聞岳	922	鹿児島			
50	本部富士	日良山(ミラムイ)	250	沖縄			

(注) 現役には来年度山行計画立案の都合上、先に10座を割り振ってます。OBG諸兄姉は他の40座を担当願いたく。

③早稲田大学山の会創立50周年記念誌「やま」案

発刊に寄せて 早稲田大学山の会会長、稲門山の会会長

山の会50年のあゆみ

1. 50年の歩みの総括

- ・ “うけた” 「大衆性」
- ・ 「研究性」と「大衆性」設立趣旨をめぐって悩んだ二十年間
- ・ 遭難死…… 「大衆性」の見直し…… 尖鋭登山指向へ
- ・ 会員の減少…… “消滅”の危機を乗り越えて
- ・ 復活の兆し…… OB有志のサポートが力になって
- ・ 見事復活…… 新しい部室…… 冬山も……

2. 創立のころ（1956年～1957年）

- ・ 設立の下話…… 和田、大国、山口進、横田、磯貝諸先輩が……
- ・ 設立準備…… 稲田先生を会長に、三田先生を副会長に、…… 設立総会を開いて発会……
- ・ 初回山行は「伊豆天城山」
- ・ 「やま」創刊号発刊

3. 大所帯山岳会に（1958年～1960年）

- ・ うけた「大衆性」…… 200人に迫る大所帯
- ・ 58年のハイライト「飯豊山合宿」
- ・ ～冬はスキー合宿、まだ会山行としての冬山はなかった……～
- ・ 59年 北アルプスに舞台を移しての夏合宿「雲の平集中登山」
- ・ 研究部活動も活発化…… 屋久島の生物研究、気象部定点観測、秋山郷の研究など
- ・ 初めての「雪上訓練合宿・富士山」
- ・ 60年 問われる「研究性・大衆性」～先鋭的登山指向の台頭～
- ・ 全後半の分けた「夏山合宿・黒部乗越集中」
- ・ 「大衆性」を安全確実に実践するために……
 - 初めての「リーダー養成山行・冬の遠見尾根」
 - 初めての「新人合宿」（生活技術合宿・北八ヶ岳）

4. 芽生えはじめた「雪よ岩よ」への指向（1961年～1963年）

- ・ 61年 新人を迎えて、「生活技術合宿」から「新人合宿・八ヶ岳」へ
- ・ 五月の会山行「北アルプス」と「会津朝日～駒ヶ岳」…… この対象
- ・ 夏合宿「北ア全山トレース」
- ・ 気象部の白馬岳定点観測
- ・ 初めての「RC山行・秋の穂高」が行われ、
- ・ 第一次エクアドルアンデス遠征隊もこの年。
- ・ 62年 はじめて向き合った会員の遭難死
 - ★「乗鞍岳遭難報告書」「やま9号」より抜粋転載
- ・ 中村君の死を乗り越えて、「より困難な登山」を希求する気運の高まり。

5. 急速な会員の減少の中で（1964年～1969年）

～苦悩する山の会～

- ・「尖鋭的登山希求者」と「草山派（仮称）」の狭間で……苦悩した幹事長
- ・冬山会山行の始まり（65年）
- ・エクアドルアンデス遠征隊派遣
- ・研究部の消滅 研究性を放棄したわけではないが……

6. “少数精鋭”の10年～キラリと光る山行記録も～（1970年～1977年）

- ・「冬山合宿」「春山合宿」「岩登り合宿」の定着
- ・「たった四人のヒマラヤ」
- ・10年ぶりの会誌「20周年記念号」の発刊
- ・追いやられた草山派

7. 灯火を守った二十年（1978年～2000年）

「私たちのころ」（仮題）

1980年ころから5年おきくらいに

- ①「回想録」を執筆して頂く…… 内山さん・大関さん・天野さん……
- ②「座談会」を開いて収録掲載する
 - ・OB宮垣秀章君の遭難死
 - ・OB有志、必至のサポート

8. OBとともに復活を（2001年～）

- ・「早大山の会大ピンチ！」 稲山会通信第5号
- ・浜田OB、早大山の会会長に！ 稲山会通信6号
- ・新しい部室
- ・創立45周年記念行事 ～活性を取り戻したOB

記録編

※山行記録を複写転載を原則とする。

1. 主な山行の報告（会誌「やま」の掲載記事から抜粋転載）

会山行：冬山 春山 新人合宿 初夏の山 夏合宿、雪上訓練合宿

部山行：光り物を選んで

海外遠征：

2. 会員の紀行・随想・詩歌・絵画 を「やま」から適宜選択。
3. 歴代会長・役員・会員数の推移年表風にまとめ
4. 山行記録表（創立から現在迄の全山行記録リスト・判る範囲で年月日、山行ルート、参加メンバー名を記載）

以上

編集後記

明けましておめでとう御座います。今年は山の会が創立50周年の年ですので、50周年記念号をお届け致します。長きにわたり存続してきた大学山岳会としてOBGの皆様の暖かいご支援の賜物と感謝しております。しかしまだまだ進行の委員が足りない事が役員会、各WGの頭痛の種です。これからでもOBGの皆様がご援助、ご支援をして戴ければより充実した50周年のイベントが実施できるかと期待しております。

編集委員一同